

第28回馬の絵作品展 審査講評

審査委員長 齊藤 隆博

応募の方法が変わりましたが、遠くは滋賀県や四国まで数多くの作品が寄せられました。全体では、どの作品も馬の姿に力強さがみなぎり生命感に溢れています。小学校低学年は、馬に触れた心地よさや心おどる気持ちを大胆に表現しています。学年が進むにつれて、混色や構図、遠近感など変化と工夫が見られて、技能面も向上しています。例えば、画面一杯に2頭の馬の顔やたてがみを克明に描いたり、構図では乗馬体験を真上からとらえたりなど、独創的な表現が多くなりました。

また、神田日勝は周囲の背景を大切にしていますが、今年は自然の林や草原の美しさを強調している作品が印象に残りました。少し気がかりなことは、各地域の行事に参加する馬の絵が少なくなったことです。馬の文化にも目を向けて下さい。

次年度も、全国各地から皆さんの熱の入った数多くの作品をお待ちしております。